

2024 新春対談 徳島市を盛り上げる仕掛けづくり

徳島市を盛り上げるために取り組んでいる仕掛けとは

市長 みなさん、明けましておめでとうございます。さっそくですが榎本さん、本日の開催場所であるインクルーシブカフェ「tabi no otomo」をアミコビルにオープンされましたが、アミコビルを選んだ理由などを教えてください。

榎本さん 私は、「福祉」の活動を「共生社会」につなげていきたいという思いがあります。その一環として福祉から「まちおこし」ということで、市民の皆さまや全国に向けて発信していくためには、この駅前という場所が魅力的だと考え、アミコビル5階にインクルーシブカフェ「tabi no otomo」を出店しました。

福祉を伝えるときは、かしまってしまいがちですが、「tabi no otomo」のようにカジュアルでもきちんと福祉に寄り添っている空間があるんだということを知ってもらい、足を運んでもらうことでまちの活性化に貢献したいと思っています。

また、店内には「OriHime」という分身(遠隔)ロボットがあり、寝たきりや車いすの方など、外出することが難しい人が、自宅にいな

ながら遠隔で操作して働くことができます。「OriHime」を通じて出向型の障がい者雇用が生まれ、働き方やコミュニケーションの選択肢が広がるんだということ是非皆さまに知ってもらいたいと思っています。

市長 近藤さんは経営されている株式会社電脳交通の本社をアミコビル6階(下写真)に移転されましたが、駅前に移転された狙いなどお聞かせください。

近藤さん 今、100名以上の従業員がいますが、なかなかその規模の企業を受け入れてくれるところがなく探していました。私の場合、徳島にいな



ネスの最先端を走り続けて、全国や世界から注目いただけるような企業を作っていくことも含めて考えた結果で、アミコビルを選びました。

古い業界の構造改革をしていくために、新しいシステムを作って全国で販売しているのですが、地方においてもこういった組織が作れることを証明できたのかなと思っています。

市長 今月から、徳島市と協働でAIデマンド交通「のーと徳島」の実証実験を実施しますが、どのような考えがありますか。

近藤さん 徳島市は、中心市街地の施設の動線を作っていく上で、人の交通量や交通渋滞、また、高齢化などの課題もありますよね。そこを地域の実情に合わせた配車システムを作っていけたらと思います、交通事業者として人が動いていく仕組みを提案させていただきます。

ただ、このシステムだけでは完結することではなく、行く目的や動機を作ることも大事なので、地域の「にぎやかし」をみんなで考えて、いろいろなアプローチをやっていく必要があると思います。

市長 私も徳島駅がいろいろな交通のハブになっていると思ってまして、おっしゃるように「にぎやかし」が必要というところで、森實さんは、そういう「にぎやかし」を若い力でやっていただいていますよね。

森實さん 私は、徳島商業高校3年生でビジネス研究部で活動しています。「ComCos(コムコス)」というイベントは、コスプレというジャンルでアミコビルを中心に撮影や交流を楽しむイベントになります。また、ステージパフォーマンスもあって、コスプレイヤーの方が好きな曲とキャラクターで、自由に踊って会場を盛り上げる内容もあります。

若者の力で駅前をより活性化できたらいいなという思いがあって、不安もありましたが、自分たちでアポを取り交渉を重ね、このイベントを開催してきました。

市長 高校生で、中心市街地の活性化について考えるのはすごいですよね。

こういう形で高校生や高齢者の方など、いろいろな人が中心市街地に集まってくると、そこで新たなものが生まれ、活性化につながっていくのではないかと考えますし、さまざまなオフィスが入ると障がいのある方も働けるようになるということも含めて、中心市街地がにぎわうのではないかと考えています。

徳島市を、さらに盛り上げていくには

市長 徳島市をさらに盛り上げていくために、皆さんそれぞれの視点でどういうお考えがありますか。

近藤さん 私の会社の従業員もどんどん増えてきて、県外から移住してきてる人も増えてきています。移住してきた人たちが、徳島の人を巻き込んで、例えばオフィスの一部を使ってカフェのサテライト店をやってみたりすることで、化学反応が起こり、新しい取り組みをこの場所からどんどん発信してくれているんですね。結局そういう人たちが集まると、「類は友を呼ぶ」というように、いろいろな人たちが巻き込まれていくと思っています。

市長 徳島市中心市街地活性化基本計画のキーコンセプトが、「ダイバーシティ&イノベーション(人と人がつながり、新たな挑戦と投資が生まれる街)」なので、まさにその通りだと思います。いろいろな人が集まれば、相乗効果が生まれ、新しい価値やサービスが生まれることもありますね。

榎本さん 化学反応という話がありましたが、1人ではできないことも、それが異業種であっても、お互いに交わることで思いもつけない爆発が起きます。それが「まちおこし」であったりするわけです。私は福祉という角度から見ているのですが、例えばインバウンドで着物を使うということになった場合、違う視点から連携を深めることができれば、そのことによって観光としての道につながったり、何か新しいイベントが生まれることだってあると思います。

関係ないと言って終わらずだけじゃなくて、自分ごととして、みんなで一緒に考えることで、そこからいろいろな化学反応が起きると思っていますので、それを楽しみませんか、というお話をさまざまところでさせてもらっています。

森實さん 私は、経済効果の検証をしたいです。今、地元の企業さんと商品開発で携わらせていただき、1日限定でComCos限定メニューを作ったり、徳商デパートというイベントもさせていただいています。これから、いろいろな企業さんとコラボをしていき、イベントを通して生まれる経済効果を検証していきたいです。

今年は辰年。「たつ」のように大きく成長を

市長 今年の皆さんの抱負をお聞かせください。

森實さん 普段は「校内模擬会社(※授業で学んだことを生かすため、より発展的な活動を行うグループ)ComCom(コムコム)」で活動しています。ComComはコママーシャル&コミュニケーションの略で、商業で人と人をつないで、徳島県から全国へ、商業の力で盛り上げていこうという意味も込められた会社名です。

今年の春から県外の大学に進学しますが、外から見た徳島の課題について、自分の学びを生かして徳島に貢献できるような活動をこれからも続けられたらいいなと思っています。

榎本さん 今年はいろいろなところで、企画であったり、つながりであったり、たくさん化学反応を起こしていきたいと思っています。また、「tabi no otomo」を皆さんにもっと知っていただくことで、アミコビル館内で人流の仕組みづくりをしていきたいなと思っています。

近藤さん 今まで以上に地域の人たちを巻き込んで、都市圏への人口の流出をなんとか防いでいきたいという思いがあります。徳島にいな

でも、東京、さらには世界で渡り合えるような人材の育成、能力の開発ができるような組織を作りたいです。そうすることができれば、みんな話題にしてくれるし、興味関心を持ってくれる。そこに子どもを就職させたいと思ってくれる親御さんでもできるかもしれないです。

市長 私はこれまで、「みんなで動く」ということを掲げてきたので、皆さんのような、まちの課題を「自分ごと化」できる人をもっと増やしていきたい、いろいろな場所で化学反応が起こるように取り組んでいきます。

これからは、交通や企画・イベントが肝になると思います。中心市街地をみんなの力で盛り上げていきたいと思っていますので、いろいろな人を巻き込んで、みんなで楽しく、そしてこの徳島をよくしていけたらと思います。

本日はありがとうございました。



◆もりまき うたさん
(徳島商業高校3年生 ビジネス研究部部長)
商品開発や地域活性化に取り組む徳島商業高校の部活動「ビジネス研究部」の部長を務める。昨年6月と11月に、アミコビルなどで、コスプレイベント「ComCos」を企画・開催。コスプレイヤーやカメラマン計約400人が参加し、多くの人でにぎわう。



◆森實さんが企画したコスプレイベントのポスター



◆近藤 洋祐さん
(株式会社電脳交通 代表取締役)
高校卒業後、メジャーリーガーを目指しアメリカの大学に進学。卒業後は帰国し、祖父が社長を務める「吉野川タクシー」に入社し、ドライバー経験をを経て代表取締役就任。その後、タクシー配車システムの開発・提供と配車業務の代行事業を行うベンチャー「電脳交通」を立ち上げる。令和2年5月に「徳島市と株式会社電脳交通との地域活性化包括連携協定書」を締結。

